物々交かん

下妻小学校
六年
松﨑
美空

みなさんは欲しいものがある時はどうしますか。お店やインターネットで、現金や電子マネーかクレジットで買っていますよね。でも、お金の価値が低くなり、物と物を交かんして、欲しい物を手に入れる、いわゆる「物々交かん」をしている時があったそうです。それが戦時中です。これは私のお母さんのおばあちゃん、つまり私にとってはひいおばあちゃんからお母さんが子どものころに聞いた話だそうです。

ひいおばあちゃんの家は、農家でした。戦時中でも、少しのお米や野菜を作っていて、食べる物にはそれほど困らなかったそうです。

ある日、一人の知らない女性がおばあちゃんの家にたずねてきて、「私は大牟田から来ました。この着物と食べ物をかえていただけませんか。」と、言われたそうです。大牟田も空しゅうが

原稿のまま

あり、町が大変な中、車も電車もないのに、三時間以上歩いておばあちゃん家まで来たそうです。汗だくで、手も足もよごれていた女の人を見ておばあちゃんが、「大変でしたね。これを持っていってください。」

と、少しのお米といもなどを着物と交かんしたそうです。女の人はなみだを流し、何度も何度も頭を下げてお礼を言って、帰って行きました。

私たちは、ちょっとおなかがへったなと、思うとすぐに食べ物が手に入ります。おなかいっぱいの時には、ご飯を残したり、好きらいをして食べ物を残したりします。

私はひいおばあちゃんの話を聞いて、今、当たり前のことは、昔は当たりまえじゃないんだと思いました。

戦争は人の心が生み出します。はじめは小さなけんかから、そのうち世界中を巻き込む戦争へと発展します。戦争は絶対にだめです。

原稿のまま

私のひいおじいちゃんも戦争に行きました。

今、私がここに生きているのは、命がつながっているからです。この命のつながりがとぎれることがないような世界の平和を強くのぞみます。